



科学デモンストレーター研修講座を終えて

石井 敏秀

科学デモンストレーターをご存知ですか？ 科学館3階サイエンスショーコーナーでおこなうエキストラ実験ショーや、おでかけサイエンス（科学館以外の場所へ出張してサイエンスショーをする）などを担当するもので、某学芸員の言葉をお借りすると、市民のみなさんに科学の仕組みを伝える活動を支えるボランティアスタッフです。ただ、『なりたいです!』と手を挙げればなれるかということ、それほど甘くはなく、9ヶ月にわたる研修と検定をクリアして、晴れて認められます。では、その2011年度の研修講座を実際に受講し修了した私が、いったいどのような講座だったのかを振り返ります。

1. 師匠から芸を盗むかのように

研修のスタートは2011年6月。メニューとしては、『見学・研究』『練習』『実践練習』の3段階を3ヶ月でこなし、実験テーマが3つ設定されているために全部で9ヶ月の期間が必要になります。

『見学・研究』は学芸員が実際に披露するショーを見学して、自分なりの台本を作る段階です。ショーの基本ラインは同じでも、学芸員によって少しずつ内容が違ふことから、何を取り入れアレンジし、自分流を作っていくのが課題、例えるなら、“芸”の世界にも似ている気がします。産みの苦しみを味わう、大切な期間です。

翌月、『練習』の期間に入りますが、すぐに学芸員による仮検定があり、それを通過しないと次へ進めないという関門です。つまり、日頃から自分自身で練習を積み、ショーの内容を磨いて修正するなどしておかないと、時間的にも間に合わない厳しさがあります。

2. 呼び込みも修行のうち

そして最後、お客様の前でショーを披露する『実践練習』（という名のテスト）は、同じ日に研修生2人がおこないます。ひとつのテーマを2ヶ月間追っかけてきたその集大成をお客様に見ていただく段階です。そこでの研修のひとつに、ペアの研修生のショーを見学してもらうお客様を、客席にお招きすることがあります。お客様が少ないと、やっぱり盛り上がり欠けて、演じる方もノリきれないのです。3階のフロアで、「研修生」がショーをするのですがと付け加えた上で客席へ来ていただきます。研修生…？という表情をされる方もいらっしゃいますが、そこをどれだけお願いしていけるかは、練習の成果からくる自分の自信の裏返しでもあるのかなと、いつも思っていました。

3. プチサイエンスショーとは勝手に違う

私自身は、2年前から、展示解説ボランティアのサイエンスガイドもしていて、

主に3階の化学フロアで、プチサイエンスショーをおこなっています。しかし、同じサイエンスショーと言っても、展示フロアとサイエンスショーコーナーでは、どうも勝手が違うのです。場所が客席かフロアか、見ていただける最大人数、そして距離感。いろいろな条件の違いは、実験テーマや雰囲気づくりに影響してきます。プチサイエンスショーもエキストラ実験ショーも、奥が深くて難しいものだと、比べることで再認識できました。

4. 修了証書授与

2012年3月、修了式。長いようで短い9ヶ月の研修が終わりました。大阪市立科学館の…と、看板を背負って外で活動することもあるわけですから、研修中は厳しい意見も飛んできました。

『ここはゴールではなくスタートである』

修了式でいただいた言葉を座右の銘にする思いで、科学デモンストレーターとしての活動を始めていきます。科学館へご来館の際は、エキストラ実験ショーもどうぞお楽しみくださいね。



左:研修を修了した4名の科学デモンストレーターが仲間入りし14名になりました(左から、渚純子・石井敏秀・宮脇佳那・林ゆりえ)。右:エキストラ実験ショーのようす。

いいとしひで

ジュニア野菜ソムリエ。野菜・果物の販売のかたわら、科学館ではサイエンスガイド(展示場解説)に加え、この4月から科学デモンストレーターとしての活動を始める。『ショーは楽しくなくっちゃ!』が信条。

科学館よりお知らせ

2012年度の科学デモンストレーター研修講座の募集要項はホームページでもお知らせしています。ご応募お待ちいたしております(応募〆切5/15必着)。